

1. 地区の概況

図1 地区の位置

*地形図は国土地理院 基盤地図情報(数値標高モデル)5mメッシュにより作成

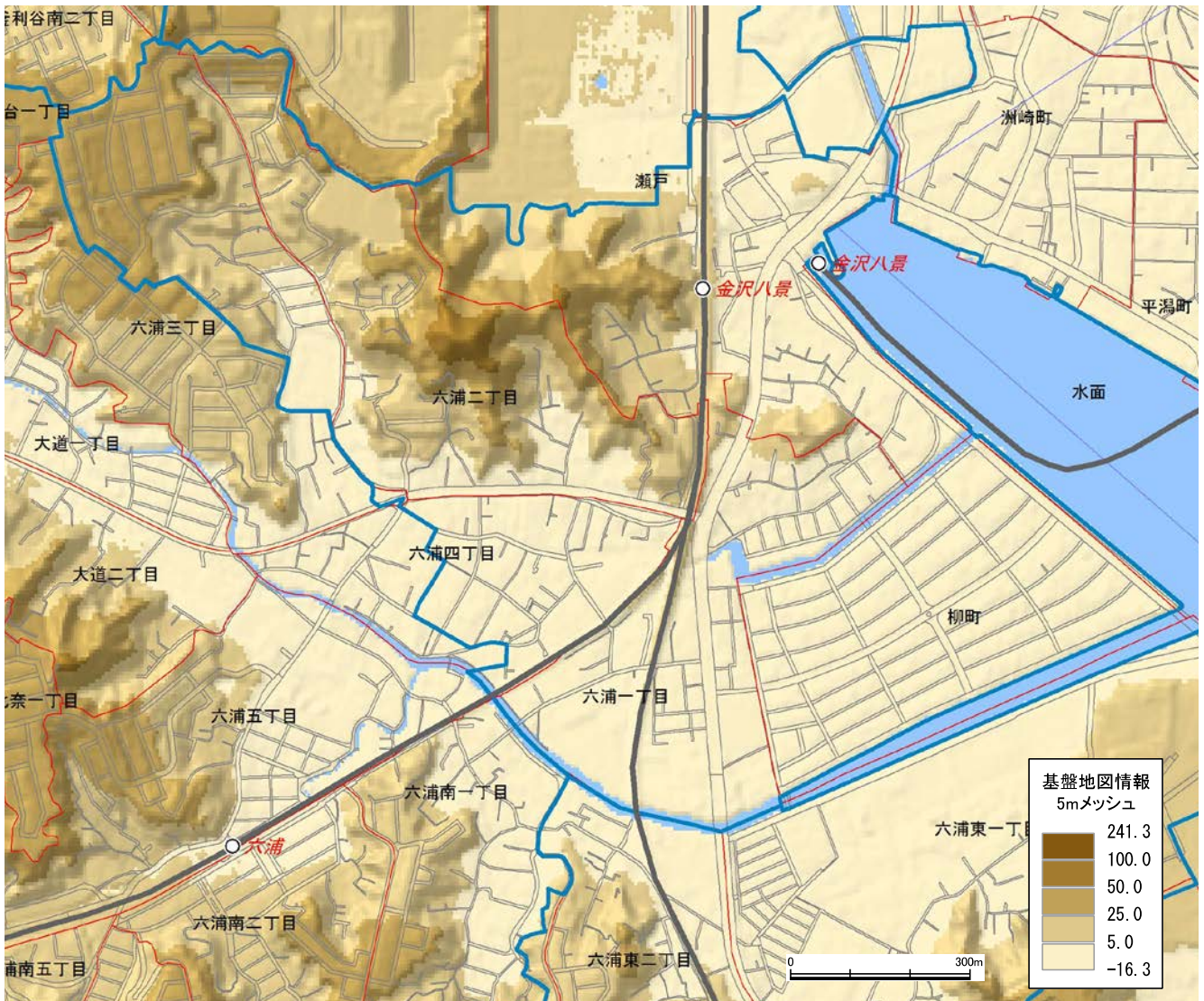


表1 人口、世帯数、年齢別人口等の動向

	平成20	平成25	平成30	平成20 ～25年	平成25 ～30年	平成25 年比率	平成30 年比率	平成30年 区平均	平成30年 市平均
人口 (人)	13,796	13,557	13,752	▲ 239	195	100.0	100.0	100.0	100.0
0～14歳人口 (人)	1,464	1,438	1,470	▲ 26	32	10.6	10.7	11.6	12.4
(内0～5歳) (人)	578	572	608	▲ 6	36	4.2	4.4	4.1	4.7
15～64歳人口 (人)	9,386	8,619	8,338	▲ 767	▲ 281	63.6	60.6	59.5	63.4
(内20～24歳) (人)	927	775	834	▲ 152	59	5.7	6.1	5.3	5.3
(内25～39歳) (人)	2,828	2,599	2,362	▲ 229	▲ 237	19.2	17.2	15.1	17.8
65歳以上人口 (人)	3,099	3,500	3,944	401	444	25.8	28.7	28.9	24.2
(内65～74歳) (人)	1,692	1,864	2,039	172	175	13.7	14.8	14.8	12.1
(内75歳以上) (人)	1,407	1,636	1,905	229	269	12.1	13.9	14.1	12.1
世帯数 (世帯)	6,478	6,577	6,998	99	421				
平均世帯規模 (人/世帯)	2.13	2.06	1.97					2.29	2.10

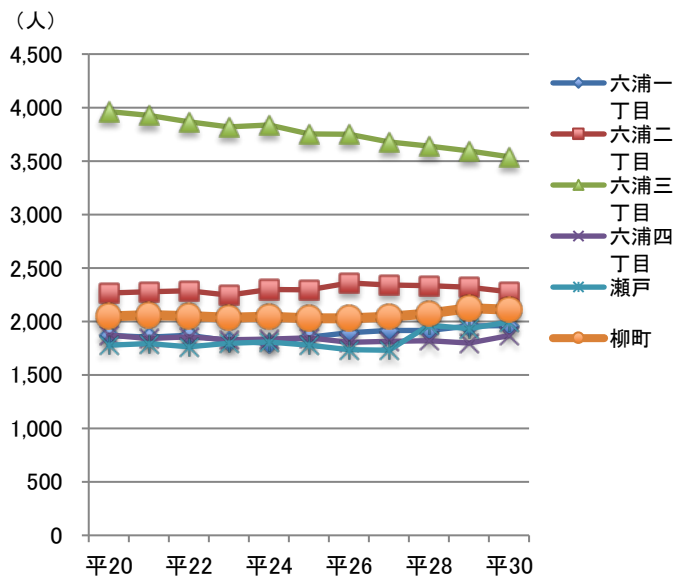
*「町別世帯と人口」、「町別年齢別男女別人口」による。各年9月末現在

*人口等の統計データは町丁目を単位に集計されたデータを活用しています。

*町丁目の境界線が複数の区域にわたる場合は、町丁目の区域を単位としていずれかの区域に含まれるものとして集計しました。

2. 町丁別人口世帯の動向 *「町丁別世帯と男女別人口」による。各年9月末現在

図2 町丁別人口の動向



六浦地区には、平成30年9月末現在約13,750人が暮らしています。世帯数は約7,000世帯、平均世帯規模は1.97人/世帯です。(表1参照)

平成25～30年の期間で見ると、人口、世帯数ともに増加しています。

世帯規模は縮小する傾向が続いており、平成30年の平均世帯規模は市の平均水準(2.10人/世帯)、金沢区の平均(2.29人/世帯)を大きく下回っています。(表1参照)

平成30年時点の65歳以上の人口比率(高齢化率)は28.7%で市平均(24.2%)を上回っているものの、区の平均(28.9%)は下回っています。高齢化率は5年間で約2.9%上昇しました。

0～14歳の人口(年少人口)が増加しており、比率は区、市の平均を下回っていますが安定しています。

15～64歳の人口(生産年齢人口)は減少が続いており、比率も低下しました。(表1参照)

六浦地区には、6町丁が含まれています。

人口は、六浦三丁目が増加していますが、他の町丁はいずれも概ねゆるやかに増加しています。

世帯数は、いずれの町丁とも安定し緩やかに増加する状態が続いています。(図2,3参照)

世帯規模は、世帯規模が大きい六浦二丁目、三丁目でも縮小傾向が続いているほか、瀬戸でも縮小しています。この他の、六浦一丁目、六浦四丁目、柳町では、変動がみられるものの、世帯規模は安定しています。

六浦一丁目、六浦四丁目、瀬戸では平均世帯規模は、2.0を下回り小さくなっています。(図4参照)

図3 町丁別世帯数の動向

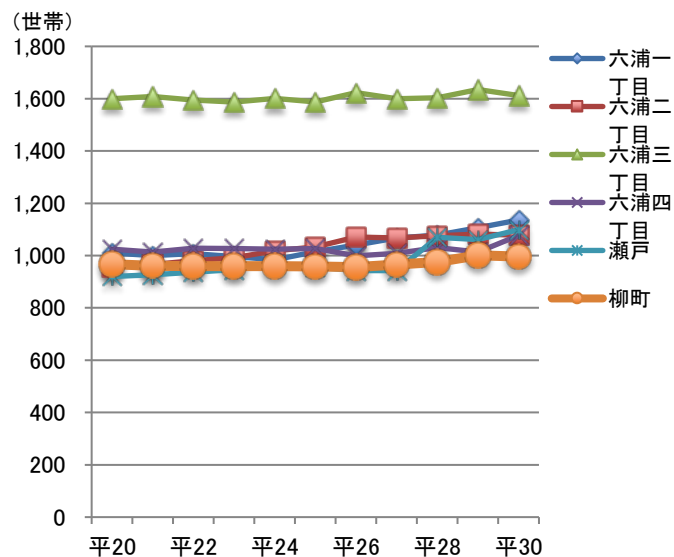
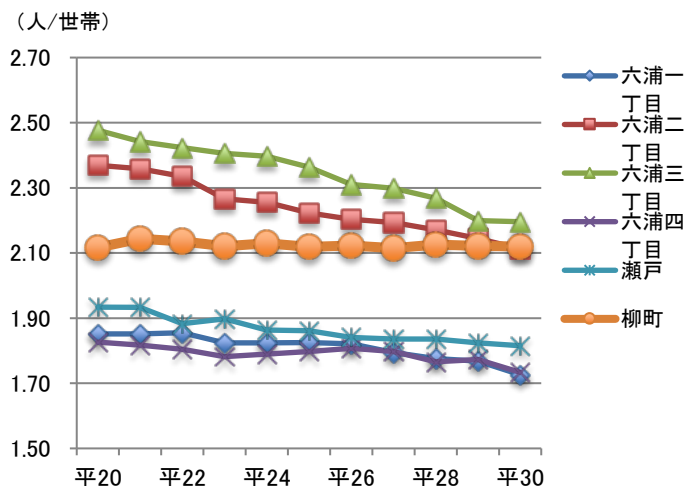


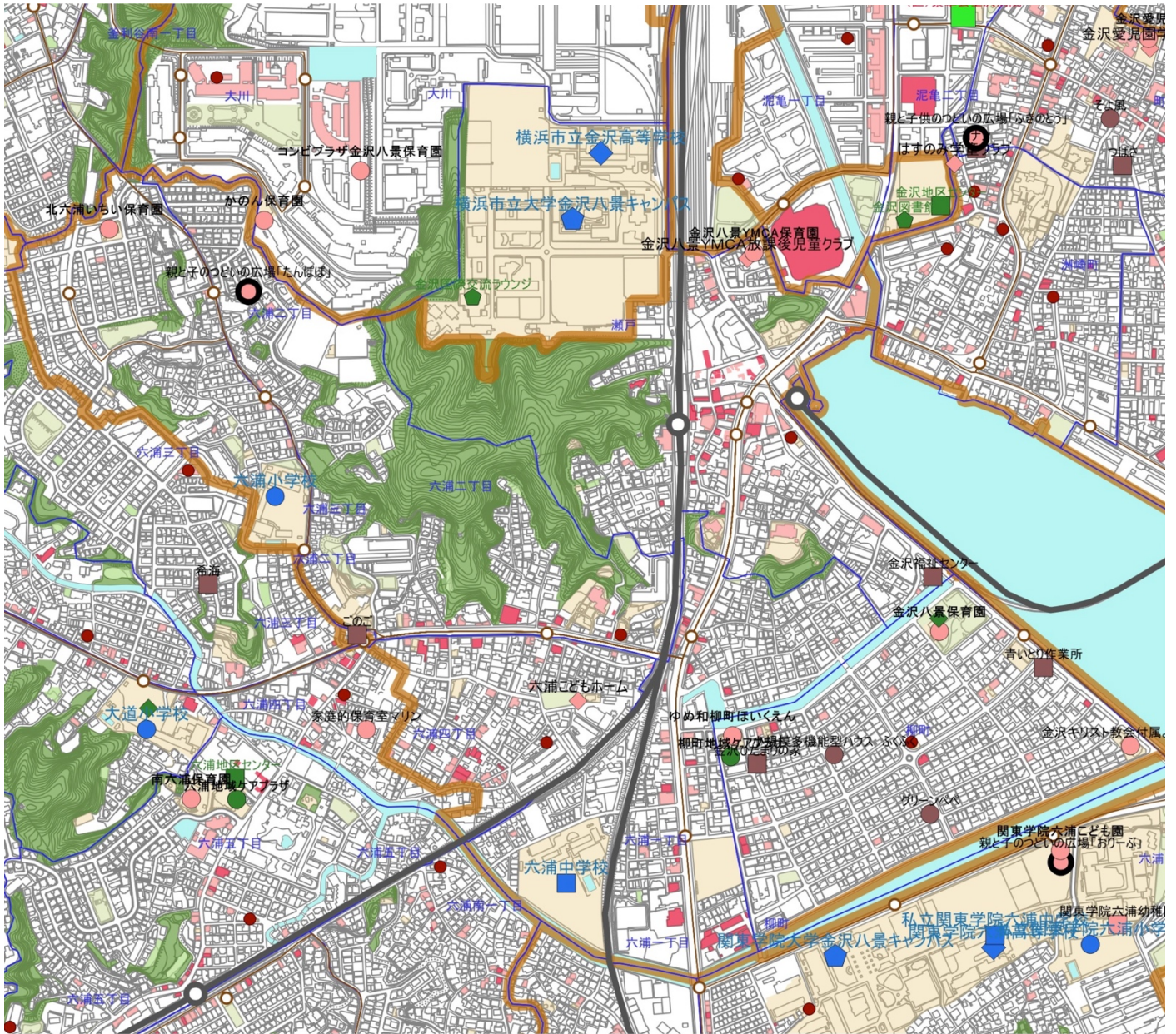
図4 町丁別平均世帯規模の動向



3. 地域の施設等の分布状況

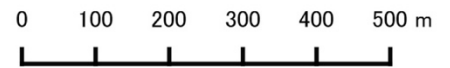
図5 地域の施設等の分布状況

*土地利用現況、建物用途現況は、横浜市都市計画基礎調査結果による。
 *施設の位置は、金沢区オープンデータ等による。



凡例

- | | |
|---------------------|------------|
| ● 区役所、社会福祉協議会等 | ● 高齢者福祉施設 |
| ● 地域ケアプラザ | ● 障がい者福祉施設 |
| ● 地区センター | ● 病院 |
| ◆ コミュニティハウス | ● 自治会館 |
| ◆ その他の区民利用施設 | ○ バス停 |
| ● 保育所 | — バス路線 |
| ○ 子育て支援拠点、親子のつどいの広場 | □ 町丁目区境界 |
| ● 幼稚園 | □ 連合自治会区域 |
| ● 学童保育 | ■ 樹林地 |
| ● 小学校 | ■ 河川・水面 |
| ● 私立小学校 | ■ 田・畑 |
| ● 中学校 | ■ 公園 |
| ● 私立中学校 | ■ 文教厚生施設用地 |
| ● 高等学校 | ■ 店舗 |
| ● 大学 | ■ 店舗併用住宅 |



【横浜市地形図複製承認番号 平28建都計第9020号】

4. 年齢別人口と人口移動

*年齢別人口は「町別年齢別男女別人口」による。各年9月末現在
 *移動人口は平成13～28年の人口移動集計結果による

図6 年齢5歳別の人口の変化

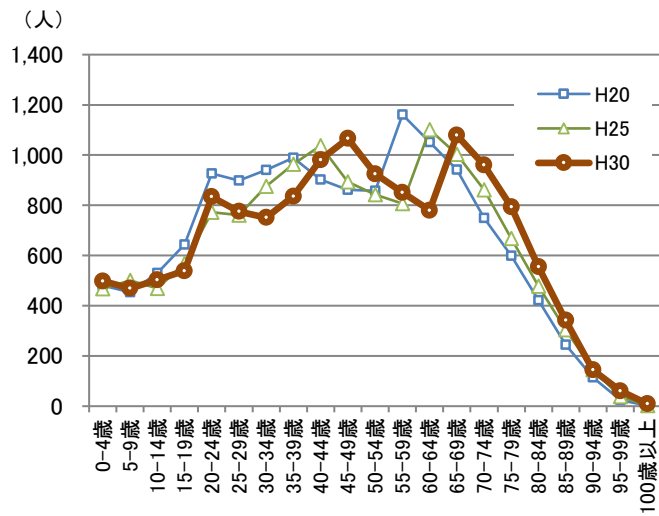
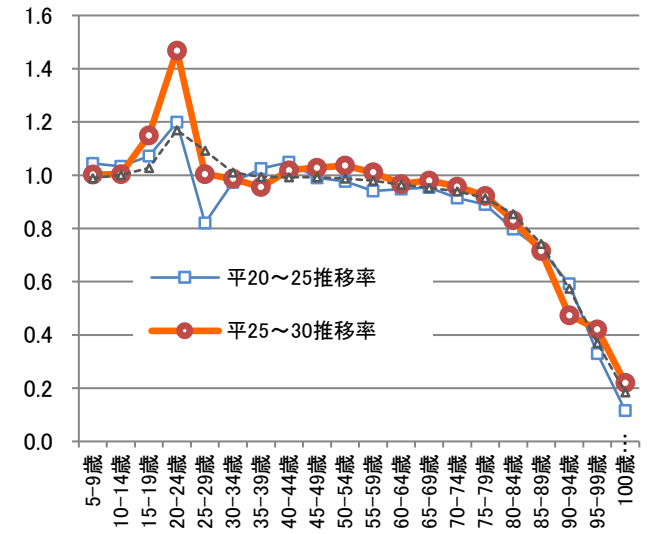
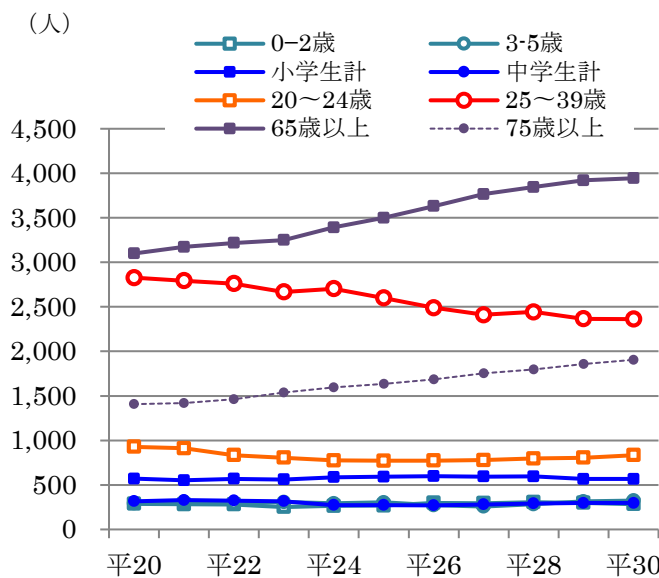


図7 年齢5歳別の人口の推移率



*推移率: 上記の場合は、年齢5歳階級人口の各階級の人口が、死亡、転入によって5年後に1階級高齢の人口になる割合

図8 年齢別人口の変化



六浦地区は60歳代後半と40歳代の人口が多くなっています。

平成20～25年にみられた25～34歳の転出による減少傾向がなくなり、平成25～30年では、15～29歳、45～84歳で推移率が上昇しました。(図6, 7参照)

人口移動は転出と転入の均衡がとれ、人口の減少も収まる傾向がみられます。平成28年には転入が転出を大きく上回りました。(図9参照)

平成28年の社会移動をみると、各年齢層で人口が転入超過になったことがわかります。(図10参照)

図9 人口移動の動向

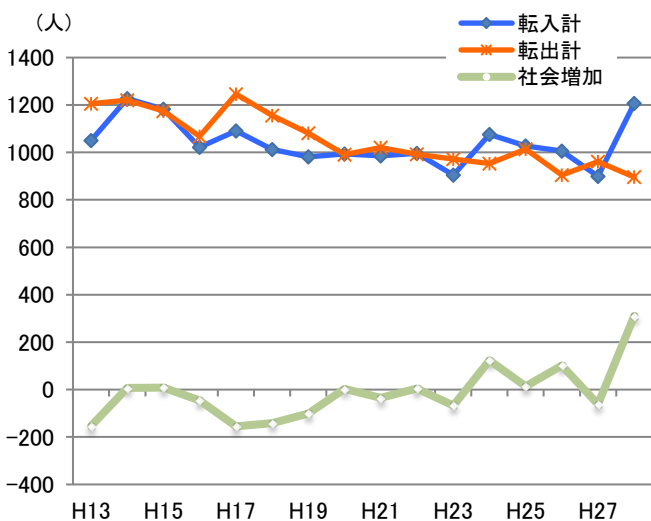
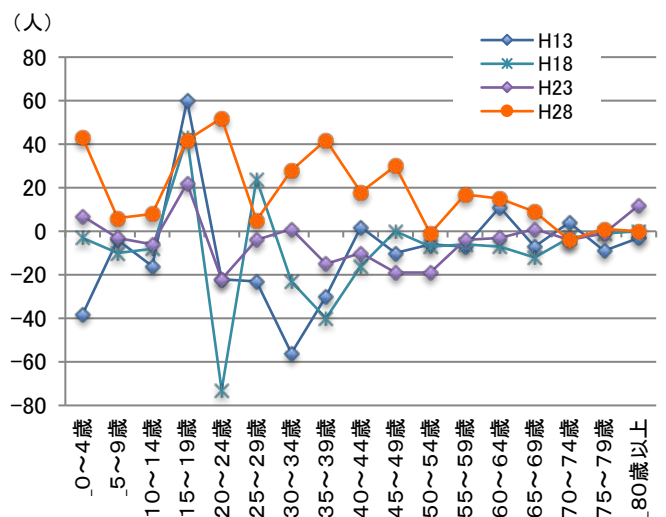


図10 年齢5歳別社会移動人口の動向



5. 世帯の状況と居住歴

*各年「国勢調査」結果による

図 11 6歳未満の子どもがいる世帯の動向

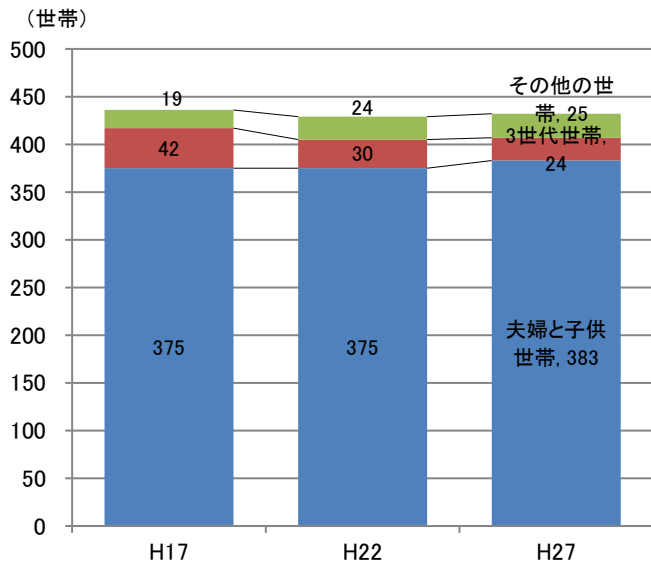


図 12 65歳以上の高齢者がいる世帯の動向

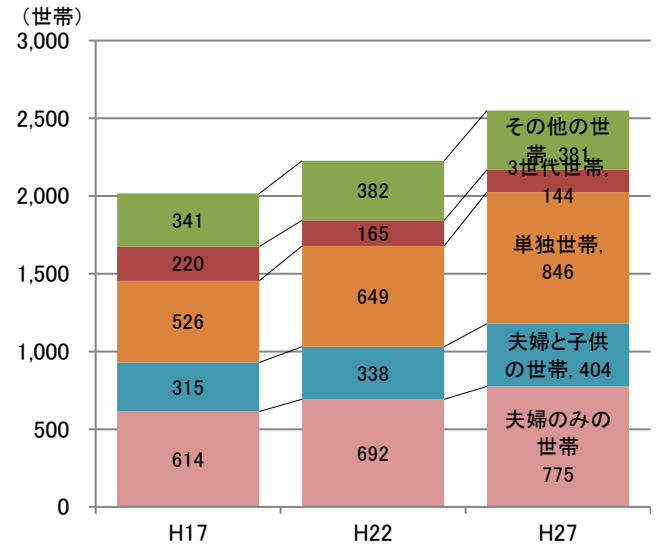


図 13 住宅の所有関係別の世帯の動向

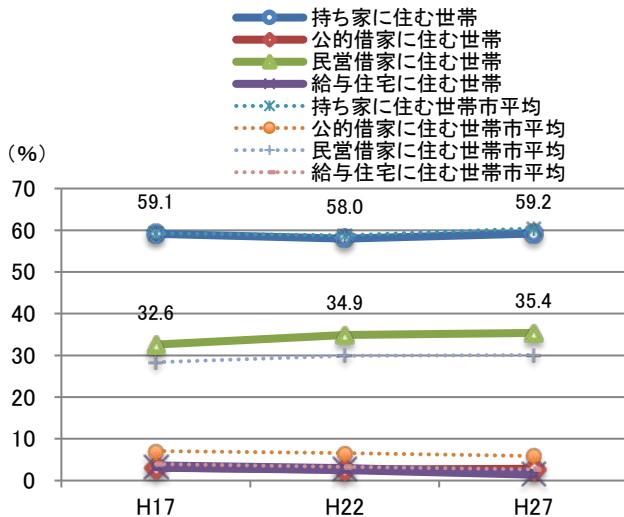


図 14 住宅の建て方別の世帯の割合

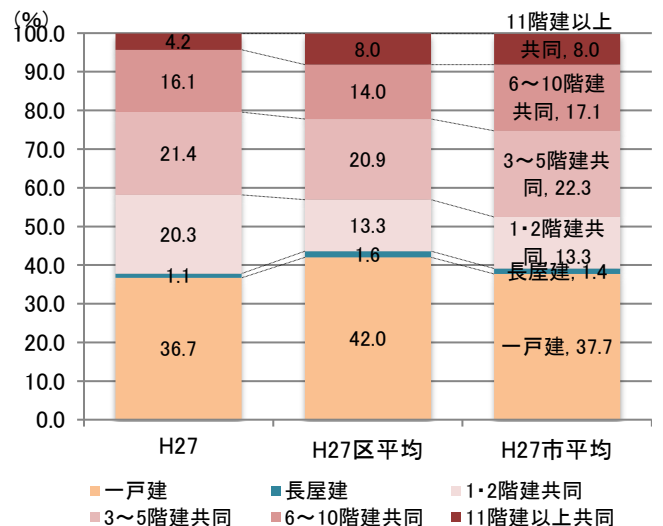


図 15 規模別世帯の動向

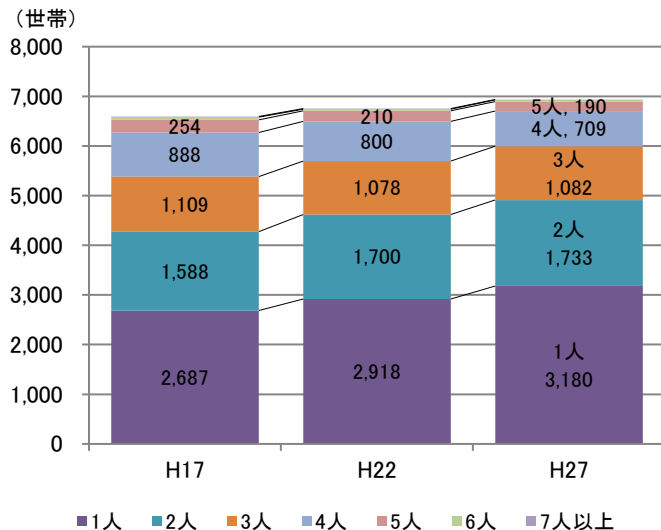
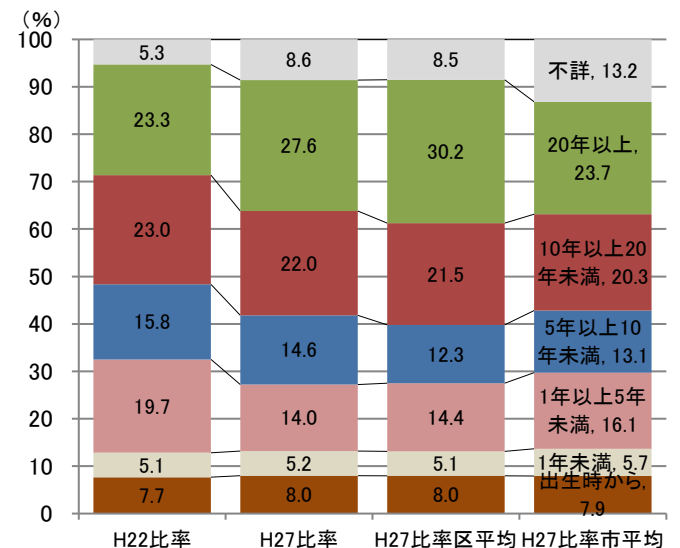


図 16 居住歴別人口の割合



6. 65歳以上の高齢者のいる世帯、要介護認定者数

表2 高齢者のいる世帯の状況 (H31)

	高齢独居世帯数(男性高齢者)	高齢独居世帯数(女性高齢者)	高齢者のみ世帯数(単身世帯除く)	高齢者を含む世帯数(高齢者と高齢者以外で構成)
世帯数(世帯)	326	787	649	1,281
対世帯総数比率(%)	4.6 (区平均 4.8)	11.2 (区平均 11.7)	9.2 (区平均 14.3)	18.2 (区平均 26.9)
対高齢者のいる世帯数比率(%)	25.4 (区平均 17.9)	61.4 (区平均 43.4)	50.7 (区平均 53.2)	100.0

*横浜市資料による。2019年3月時点。世帯数は住民基本台帳による

*高齢独居世帯は65歳以上の方1名で構成される世帯

*高齢者のみ世帯は、65歳以上の方のみで構成される2名以上の世帯

*高齢者を含む世帯は、65歳以上の方と、65歳未満の方で構成される2名以上の世帯

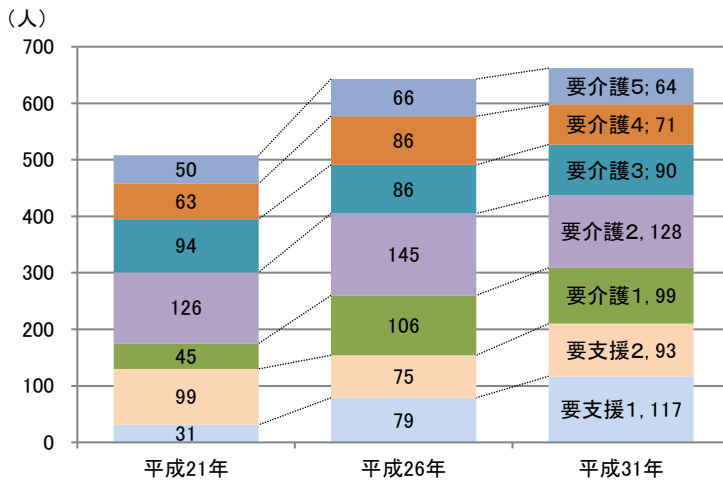
表3 要介護認定者数 (H31)

	計	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
要介護認定者数(人)	662	117	93	99	128	90	71	64
人口比(%)	4.81	0.85	0.68	0.72	0.93	0.65	0.52	0.47
人口比区平均(%)	4.70	0.73	0.64	0.74	1.00	0.61	0.58	0.40
要介護認定者総数比(%)	100.00	17.67	14.05	14.95	19.34	13.60	10.73	9.67
区平均(%)	100.00	15.46	13.69	15.82	21.31	12.93	12.34	8.45

*要介護認定者数は、金沢区資料による。平成31年3月末時点

*地区別人口は、「町丁別の人口(住民基本台帳による)」により集計。平成31年3月末時点

図17 要介護認定者数の動向



*各年、要介護度別認定者数は金沢区資料による。

7. 地区の特徴と動向

六浦地区は平潟湾に面した平地と丘陵からなる地区です。地区内を京急線が南北に走り金沢八景駅があります。横浜市立大学の八景キャンパスが地区の北側に隣接しています。

戸建て住宅に住む世帯は37%で、共同住宅に住む世帯が多くなっています。中高層の共同住宅に住む世帯が多いですが、1・2階建ての共同住宅の居住世帯が約20%あり区の平均(約13%)を上回っている点が特徴です。(図14参照)

また、持家に住んでいる世帯は約59%、民間の借家に住む世帯は約35%です。区の平均に比べて民間の借家に住む世帯の比率が高くなっています。(図13参照)

居住期間が長い人が多くなっています。平成27年時点で、居住期間が「20年以上」(約28%)、「10年以上20年未満」(約22%)が多くなっています。(図16参照)

6歳未満の子どもがいる世帯は安定した状態が続いています。

6歳未満の子どもがいる世帯は、平成27年で約430世帯で、世帯総数(約6,940世帯)の約6%を占めています(区平均は約8%)。このうち約89%が核家族です。(図11参照)

65歳以上の高齢者がいる世帯は増加が続いています。特に高齢者の単独世帯、高齢者の夫婦のみの世帯の増加が目立ちます。

平成27年で高齢者のいる世帯数は約2,550世帯で、世帯総数の約37%を占めています(区平均は約41%)。このうち、高齢者の夫婦のみの世帯は約30%、高齢者の単独世帯は約33%です。(図12参照)

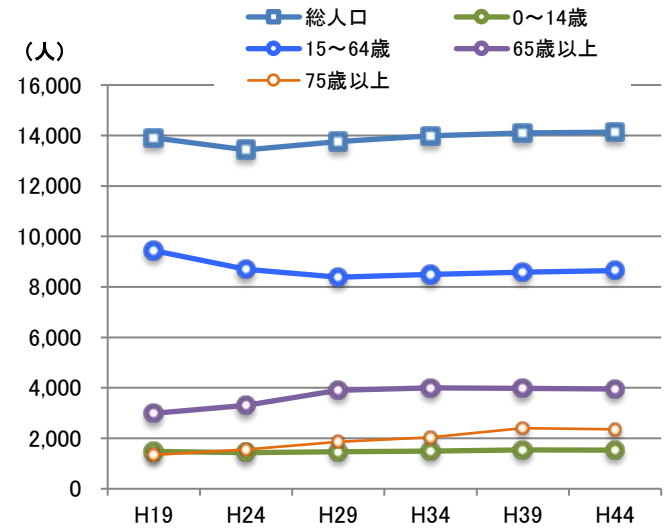
平成29年時点の高齢者のいる世帯の比率は約41%で、区の平均(約43%)に近い比率です。(表2参照)

また、要介護認定者の人口比率は約4.8%で、区の平均(約4.7%)をやや上回っています。(表3参照)

現在は、20歳代前半に転入増加傾向があり、40歳代にも弱い転入増加傾向があります。25~39歳が転出により減少する傾向が弱くなってきているため、人口は緩やかに増加するようになってきています。(図7参照)

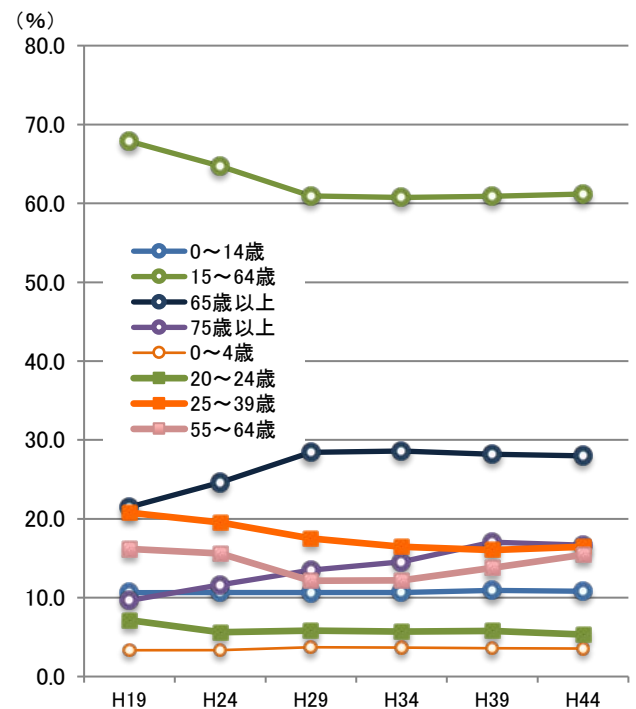
現在の年齢5歳別の人口の変化の傾向が続くと、今後は緩やかに人口が増加していきます。

図18 人口の動向と推計



*平成24~29年の年齢5歳別人口の変化の傾向が続くものとして推計した値です。
*平成34年以降が推計値です。

図19 人口の動向と推計 年齢別比率



今後は緩やかに人口が増加していきます。

既に高齢化率が高くなっていますが、今後高齢期を迎える人口が少ないので、65歳以上の人口の増加は鈍化します。(図6参照)

現在の75~79歳人口にくらべて、今後75歳以上になる60~74歳の人口が多いので、75歳以上の人口の増加はつづきます。(図6、7、18、19参照)